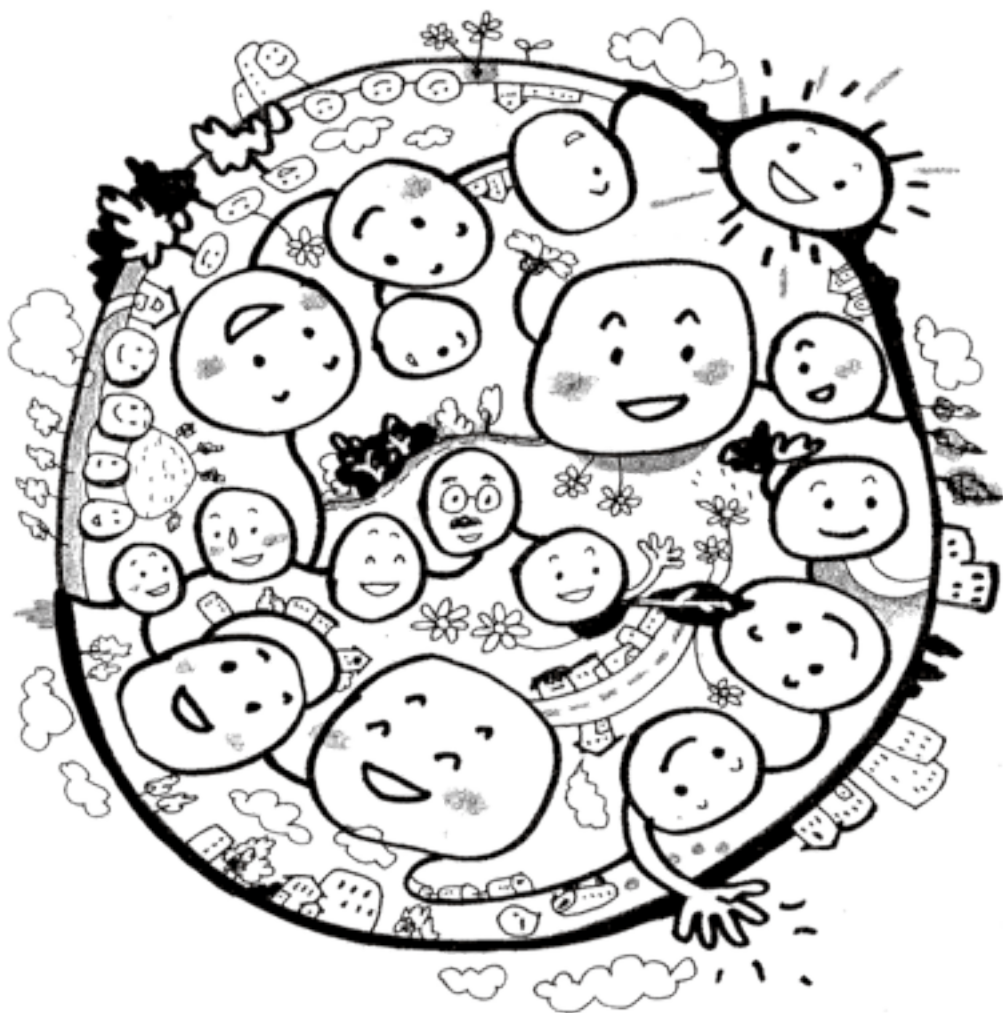


エンパワーするNGO



特集：地域交流スペースのステップアップ！



ちいきにひろがれ ふくしのわ

わいわい通信

Vol.26

2017.3

神戸YWCA 地域福祉部ニュースレター



も く じ

活動紹介・ボランティア募集中！・・・・・・・・・・ 3

特集 地域交流スペースのステップアップ！・・・・・・ 4

グループ近況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

被災者支援プロジェクトからの報告・・・・・・・・・・ 17

ありがとうございました！・・・・・・・・・・・・・・・・ 19



地域福祉部って ...

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、神戸YWCAでは9つのボランティアグループが生まれました。神戸YWCA地域福祉部は、それらのグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～ひとりひとりが存在そのものを大切にされる地域社会作り～を実現するために活動しています。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力しあうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外へのそれぞれの活動の情報の発信なども行なっていきます。

グループ活動紹介

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日時
高齢者のサポート		
わいわいランチ	一人暮らしの高齢者世帯に手作りのお弁当をお届けしています。盛りつけや配達など得意なところで力を発揮しませんか。	月～金曜 9:30～13:30
わいわい亭	(食事会) 高齢者対象の会食サービス。食事の準備や話し相手をして、皆さんと過ごしましょう。	第2・4水曜 11:00～13:30
	(歌の会) すてきなピアノ伴奏で童謡や唱歌、懐かしい曲を歌い心身ともにリフレッシュ！ ご一緒にしませんか。	第3木曜 14:00～15:00
わいわいデイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜 10:00～15:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。	第3水曜 14:00～16:00
子どもと家族のサポート		
わいわい科学クラブ	小学生対象。身近なテーマのおもしろ実験やものづくりを楽しむ子どもたちの笑顔が励みです。若者、保護者、熟年者みんなで企画、運営しています。	毎月1回土曜 9:30～15:30 本館と分室
ちゃいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。ハロウィンなどの季節イベント、つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひご参加ください。	第1・3水曜 11:00～15:00
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話を伺っています。参加してみませんか？	第2・4土曜 18:00～22:00
当事者と仲間たちのスペース		
カフェもぐもぐ	若年性認知症の人とその仲間たちが集い、学び、仕事づくりをめざしています。ぜひご参加ください。	第1土曜 9:30～15:00
地域交流スペース		
木曜カフェ	地域の人たちが気軽に立ち寄ったり、つながったりできるスペースを一緒につくっていきませんか。有機野菜(14:00～15:00)、食パン、焼菓子、乾物の販売とカフェを開いています。第3木曜は13:00より「くるくる」オープン。	毎週木曜 14:00～15:30

一緒に活動してくださる方を大募集しています !!!

特集

地域交流スペースの ステップアップ

2016 年度は、安定した基盤と生き生きとした活動をめざしてきました。福祉 NPO 団体に学んだり、リサイクルショップ運営や NPO を励ます活動が続ける「フリーヘルプ」のスタッフに大きな教示 とサポートを受けたりしながら、新たなグループ活動をすすめています。それが、わいわいランチや木曜カフェの改良、「くるくる」12 月オープンに繋がりました。

「分室を地域交流スペースに」という取り組みはまだ始まったばかりですが、この 1 年の歩みを 報告します。

木曜カフェ *2016

*他の NGO と協力して毎週木曜に開いているカフェ。

2016 年度木曜カフェは 4 月 20 日からスタート。3 月末まで 40 回行う予定である。

❖ 有機野菜販売「いちじま丹波太郎」の開始

連携団体「食品公害を追放し安全な食べ物を求める会」の紹介で、有機農業の里、丹波市島町の移動野菜販売「いちじま丹波太郎」に、毎週木曜 2～3 時、オープンスペースに出店してもらうことになった。

12 月 15 日で 31 回目の出店となる。



「歌の会」が開かれていたり、ちやいやあらんどのママが覗いてくれたり、ご近所の方々が待ち受けてくださったりした。ほとんどの人と顔見知りになり立話をする機会が増えた。買い物の後に待合スペースでくつろぐ人が増えることを期待している。

❖ 助成事業から自力運営へ

「木曜カフェ」は、2014 年秋から 2016 年 3 月までは WAM 助成事業として行なっていた。分室を地域の交流スペースとするため、連携団体の「むつみ会」「えんぴつの家」「シティ・ライト」「求める会」には、物品販売をお願いしていた。しかし 2016 年度は自力で運営することにし、連携団体の販売は月 1 回とした。その他の日は、有機野菜販売「丹波太郎」の傍らに、「えんぴつの家」の食パン、「むつみ会」の焼菓子、「求める会」のひじき、椎茸などの乾物と調味料、コーヒーと紅茶などを並べている。安全や安心にこだ

わった物は味が濃くおいしい。それを知っている固定ファンが買っている。

「歌の会」に来た人、活動の打ち合わせにやって来た人、病院訪問の活動後に寄ってくれる人、寄贈品持参の人などが増えている。分室に用事でやって来たついでにコーヒーや紅茶を注文してくださる。「幾杯かのコーヒーを淹れることを厭わない。毎週の定期開催が認知度を高めることに欠かせない。地道にやりましょう」とコーヒーマスターに励まされている。



「いちじま丹波太郎」
「いちじま丹波太郎」は有機農業に取り組む若者に様々な支援をおこなっている。

● 待合スペースで連携団体の 「お話し会」を開催

7月に「シティライト」と「いちじま丹波太郎」、9月に「食品公害を追放し安全な食べ物を求める会」によるお話を聞く会を実施した。それぞれの団体の成り立ちや主旨、扱う品物の話をお聞きして、野菜作りや安全な食べ物について話し合った。参加者から体験談も出て、和やかな会となった。

7月初旬には平和活動部から申し出があり、木曜カフェで「憲法紙芝居ラ



「食品公害を追放し安全な食べ物を求める会」
安全安心な牛乳や醤油、油づくりには「こだわり」がある。その「こだわり」を知らないと、安全な食べ物に行きつかない。



「みんなのお店シティライト」
自然食品のお店。無添加や国産の物を並べたり、保護者が作った無農薬や減農薬の野菜を販売したりしている。



憲法紙芝居ライブ
替え歌やギター演奏があり、憲法を分かりやすく学ぶ。

イブ」が2回上演され、憲法に関心がある方々が集った。会員からのアイデアで、読んだ本について語る会をしたいとの声も挙がっている。ミニ学習会、ワークショップ等々、大歓迎。待合スペースを生かしていきたい。会員グループも他団体でもOKです。

❖「くるくる」オープンで新たな展開が

初秋から準備してきた地域のお店「くるくる」が12月に初オープン。30人近くが訪れた。待合スペースでは、暖をとり、コーヒーを飲みながら、おしゃべりをする場となった。この賑わいが地域交流スペースとしての一端ではと、これからの「くるくる」オープン日も期待をしている。

(井上 みち子)



地域のお店「くるくる」* オープンへ

* 地域のおしゃれなお店

❖「くるくる」に至るまで

2014年秋から2016年3月まで、WAM助成事業「食を通して地域の居場所づくり」をすすめてきた。各グループのプログラムの改善と共に、ガレージを多目的スペースにし、さらに台所と作業スペースや待合スペースの改修に取り組んだ。

ガラス扉を押し開けると、明るくすっきりと片付いた待合スペースが目に入る。その奥では、大勢の食事をつくるキッチン器具が並び、朝9時からすでに調理担当の2人が活動をしている…。こんな「食が結ぶ地域交流スペース」ができ、以前と比べ心地好く過ごせるようになってきた。

2016年8月には、「多様な居場所づくりが求められているので新たな取り組みを助成しよう」との提案があり、それに応えたいと論議を重ねた。それが、「丁寧に生活したい」をモットーにした地域のお店「くるくる」づくりである。

❖地域のお店「くるくる」をつくろう

大量生産、大量消費、時短、簡単な風潮に、私たちは居心地の悪さを感じていた。北欧では、お母さん、恋人が編んだセーター、手袋、靴下を大切に何年間も愛用する。穴が開いたら、毛糸で繕い、布を当て、リフォームする。また、それを着なく

なっても、捨てない。ほどいて、新しいセーターに編みなおす。なんてステキなんだろう。物を大切に最後まで使う。簡単に使い捨てにしない。無駄な消費はしない。私たちも丁寧に生活したいと思った。こんな思いが「くるくる」開店に至った。

これまで、本館でリサイクルショップ「ふるふる」が長年、親しまれてきた。そのノウハウを引き継ぎ、「くるくる」が誕生した。着なくなった服、着られなくなった服を捨てないで、「くるくる」に持ち寄る。次に袖を通す人のことを思いながら、新しい息を吹き込こむ。服がステキに蘇る。そして、ステキな出会いになるように、お店をレイアウトする。今回、「くるくる」オープンのために、「フリーヘルプ」の力をお借りした。分室2階の整理に始まり、服の仕分け方、値札のつけ方、レイアウトの仕方、品物が滞らないよういつも循環しなければならぬことなど教えていただいた。このノウハウは今年度、赤い羽根共同募金の助成事業によって、生かされた。2階に整理整頓しやすいバックヤード、1階ガレージに折り畳み式の棚、天井吊りのハンガーラックを設けた。動線が決まり、私たちはとても準備が楽になり、楽しめるようになった。

こうして「くるくる」は12月15日（木）午後1時にオープンした。地域の方が楽しくおしゃべりしながら、服を選ぶ。私たちは近況を聞いたり、そ

の方にぴったりな一着を勧めたり…「くるくる」は買い物を楽しむだけの場ではなく、おしゃべり、地域の方との交流も楽しむ場だ。物質だけで満たされるのではなく、心が満たされる、地域のお店、新たな居場所になりたいと願っている。これから、認知度を高めるために、地域の諸団体に働きかける必要がある。

「くるくる」の運営に参加してくださる方、毎月第3木曜日午後1時から3時30分まで、開店中の接客をお願いできる方や開店日までに準備をしてくださる方を募集している。

（小川 佐由理）



折りたたみ式の棚とハンガーが取り付けられたオープンスペース



2016. 12. 15 くるくる開店日

認定 NPO 法人「東灘地域 助け合いネットワーク」から 学んだこと

2016 年 6 月 17 日（金）訪問見学。
村山メイ子理事長から事業の説明を受
け、毎週金曜日に開催されている「歌
声カフェ」を見学、その後スタッフの
方々と一緒に手づくりの昼食をいただ
いた。

東灘地域助け合いネットワーク（助
け合いネット）は阪神淡路大震災直後、
被災地復興を目的に設立された。1999
年に御影市場・旨水館に拠点を移し、
だれもが安心して暮らし続けられる福
祉のまちを目指し活動している。2016
年 1 月、神戸市から「認定 NPO 法人」
として認証された。それに伴い、隔月
発行の地域情報紙「東灘ばらボラ」*
の部数を 17,000 部から 30,000 部に増
やし、地域とのつながりを強めて、活
動の輪をますます広めていこうとして
いる。

*「東灘ばらボラ」は区内の地域団体の情報を
無料で掲載し、新聞折込をしている。費用は地
元の企業、経営者の協賛広告で成り立っている。



助け合いネットワークは御影市場の中にあります

助け合いネットの活動は、日常生活
支援から、介護予防、カルチャー教
室、子育て支援、受託事業など多岐に
わたり、2015 年度の利用者数は、延
べ 22,413 人である。

会員制度をとっており、2016 年 6
月現在、正会員 60 人（年会費 1 口 5,000
円）、賛助会員 136 人（個人 1 口 3,000
円、法人 1 口 10,000 円）、サポーター
161 人が支援している。

事業の中では、カルチャー教室（詩
吟・囲碁将棋・英会話・若返りフラダ
ンス・パソコン・リメイクなど）や、
みんなの居場所づくり（ふらりカフェ・
おしえあいカフェ・手話カフェ・ふれ
あい昼食会など）の充実ぶりに目を見
張った。各プログラムに集客力がある
のは、通いやすい御影市場の中という
こともあるが、地域の人々のニーズに
沿った豊富な内容で、これなら参加し
てみたいと思うし、興味あるプログラ
ムもきっと見つかるであろう。リサイ
クルショップも常設されていて、いつ
も買い物が楽しめる。どの事業もニー
ズが捉えられているように見えたが、
教室の参加者が少なくなり採算が取れ
ない場合は、すぐさま英断が下される
場合もあるという厳しさもあり、見習
いたいところだ。

また午前のプログラムの後、希望す
れば昼食（1 食 500 円、コーヒー付）
も用意され、親切なサービスがなされ
ていると感心した。私たちも今の活動
を組み合わせ、さらに楽しめるプロ
グラムができないか検討してみたい。

助け合いネットは、2003 年、無償ボランティアから 1 時間 250 円の有償ボランティアにした（現在は 300 円）。有償にすることで、やりがいが出たり、メリットは多いと思われる。

村山理事長もこれからのボランティア活動は、有償でなければ、人は集まらないと言われた。神戸 YWCA でも討議されるべき重要な課題である。

（三浦 啓子）



奥の厨房で昼食づくりを行ないます



訪問時の昼食。ビビンバとスイカがグッドマッチング！

「わいわいランチ」 財政改善に向けて第一歩

❖ 財政確立の大切さを痛感

2015 年度秋、利用者数が減っていった。長年継続していた人が超高齢になり、お弁当を食べられなくなった、施設に入所する、家族の元に転居するなど、それぞれ理由は把握できていたが、気がついたら、年度始めより 4 割ぐらい減少していた。

それからは、力を入れてチラシを作り新聞に折り込む、関係機関に配置、近くに手配りするなど努力し、その甲斐あって、新しい利用者を得て現在その数はほぼ回復した。しかし、前年度秋の急激な変化は私たちの意識を目覚めさせた。財政的に成り立たなければ、事業を続けることもできないことを実感させられた。

ボランティアは無償で働き、作業場所は元 YWCA 理事長の厚意で、自宅の一角を使用している。

しかし、なぜ、財政が厳しいのか？ 2016 年度、私たちは「わいわいランチ」を持続可能な事業として財政的に確立するために、経営の観点から事業の分析をし、改善に取り組むことにした。具体的には、一つは専門家に事業経営の相談をすること。幸運にも、企業でホテル経営を手がけたり、NGO の地域起こし事業を手伝ってきた経営アドバイザーが協力をしてくれることになった。もう一つは、元気に活動している他団体から学ぶことだ。

「明舞ひまわり」見学 2016年6月21日（火）

「明舞ひまわり」 基本情報

事業開始	2004年1月配食サービス開始。前年2003年10月、兵庫県団地再生モデル事業として助成金を得た他のNPO団体と連携して、ふれあい食事処と有機野菜の販売事業を開始。当時、同じ助成金事業（2年間）を受けた3団体のうち、今も継続しているのは「明舞ひまわり」のみ。
めざすもの	安心・美味・栄養の三拍子揃った、からだにやさしい食事提供
活動日	月・火・木・金曜日（祝日を除く）
活動場所	明舞団地松が丘ビル ・厨房専有（賃貸） ・ふれあい食堂（松が丘コミュニティ交流ゾーンをレンタル）
配食数	約90食／1日
利用世帯	93世帯 2015年度合計17,189食／190日 ＊神戸YWCA 2015年度合計4,753食
弁当値段	・昼食メニュー700円（弁当650円＋配達代50円） ・昼と夕両方注文の場合、夕食750円（弁当700円＋配達代50円）
配達時間	昼食11:30～12:30 夕食16:30～17:30
ボランティア人数	41人（女性30人、男性11人）平均年齢69歳 週2～3回活動の人が多い。カーボランティア（男女計11人）は週1回が多い。
カーボランティア	マイカーで弁当配達。1回につき1,200円の費用支給 ＊「ひまわり」所有の車は覆いのついた自動三輪車のみ
ボランティア給付	（2015年1月から）時間制の報償＋交通費

食をとおした福祉コミュニティづくりを始めて13年。リーダーの入江一恵さんは、厨房・食堂の見学からコミュニティセンターでのスライド上映とお話まで、エネルギーに活動紹介をしてくださった。「地域の人と顔の見える関係で一人ひとりとつながったので、やめようと思ったことはない」と話され、利用者もボランティアも大切にされるこの方の熱い思いで「ひまわり」の継続があるのだろうと感じられた。

夕食の配食は利用者の要望に応じて始められたという。当日は昼食30食、夕食74食の配食。昼と夕の両方をとる8食には違ったメニューが用意されていた。70食もの配達には車の数も

たくさん必要だ。

どうやって車を確保するのだろうか？そこは、カーボランティアという制度で解決だ。ドライバーがマイカーを使って来られる。

見学に同行してくれた経営アドバイザーによれば、配達料・ガソリン代が支給されるので、毎日使用しないマイカーを使うのは有効利用といえる。夕食配達時に立ち会ったが、何台もの車が並んでいるのは圧巻だった。4～5台の乗用車に加えて「ひまわり」の自動三輪車が次々と弁当を積んで出かけて行った。配食数も多いが、車も多いので1台あたりは10数食だろうか。団地およびその周辺という地域の有利

さもあり、配達時間は1時間ぐらいになっている。

家賃も払い、ボランティアに時給・交通費を払い、財政状況はどうなんだろう？ひとつ目をひいたのが会員制度だ。「明舞ひまわり」の運営に参加する正会員（年会費1口5,000円）、活動と事業を応援する賛助会員（年会費1口3,000円）があり、全国から1年に50～60万円の会費が寄せられるそう（ボランティアも会員になっている場合もある）。こういった応援も受けて、がんばっておられる。

対象世帯93世帯。私たちもよくわかるが、それぞれに固有の事情、要望がある。事務机の前のボードにはたくさんのポストイット（メモ）が貼られていた。虚弱体質の人（3～4人）には訪問して体調と要望を聞き、対応をしているそう。認知症で一人暮らしの方の見守りもしている。利用者1:1とのつながりのためにも週一度のミニ通信を発行。ちょっとしたお便りと週間メニューを載せている。メニューはふれあい食堂にも置かれ、喜ばれているそう。

❖ これから

6月に経営相談、他団体見学を始め、私たちの事業改革の道は途についたばかりだが、違った視点で現実を見たり、世界を少し広げることで道筋に少し明るさを感じている。配食数増加のための工夫、月間メニューの発行、リサイクル可能な使い捨て容器の利用など、すぐにできることは始めた。損益分岐

点の算出でコスト意識も少しは高められた。これからが本番。利用者もボランティアも喜んで参加できる、持続可能なプログラムを確立するために、相談や見学で得た知恵を生かして、引き続き改善策を考えていきたい。

（川辺 比呂子）



利用者個々人の情報が記されたボード



ボリュームのあるお弁当



おかずとごはんを詰めている



カーボランティア制度でマイカーが活動

近況報告

わいわい亭

三浦 啓子

毎月第2・第4水曜日のお昼どき、わいわい亭「食事会」の利用者さんが、明るく改装された分室の待合スペースに集まって来られます。現在69歳から95歳まで、幅広い年齢層の15人が在籍しています。この1年、古くからのメンバーが退会されましたが、利用者さんのロコミや木曜カフェを窓口として新しい人が次々と入会され、仲間が増えました。毎回10人くらいの参加があり、そこにボランティア4～5人が加わるので、食事スペースは満員で盛況です。食事は、その日のランチと同じ献立で、ボランティアが参加の方のごはんの量を加減しながらお弁当箱に盛り付けています。普段はひとりで食事される方が多く、みんなで話しながら食べるお弁当は、格別ようです。家庭的で飽きのこない味付けも、好評です。わいわい亭の人



大人気！手づくりケーキをカットしてデザート準備中

気の第一の理由は、食事の美味しさだと感じています。

それから利用者さんがもうひとつ楽しみにしているのは、第2例会での歌の時間です。食後にピアノの前のテーブルを囲んで集まり、橋本静子さんの伴奏で歌います。順番にリクエストして、みんなで合唱。ボランティアも、食器の後片付けをしながら口ずさんでいます。大きな声で歌って、元気一杯になった参加者さんと次回を約束し、お見送りするとほっとします。これからもわいわい亭で、利用者さんの暮らしのサポートができればと思います。

毎月第3木曜日に行われている「歌の会」は、今は5～6人の会員や分室のボランティアが参加して、テキストからいろんな歌を自由に選んで歌っています。この会でも、橋本静子さんに講師をお願いして、歌唱指導はもちろん、すばらしいピアノ演奏も聴かせていただいています。歌の後は、“木曜カフェ”や“くるくる”での買い物もできるようになり、楽しみが増えました。新しいメンバーを募集中です。

わいわいデイルーム

高原 佐美

デイルームのメンバーに加えて頂き、1年になります。ボランティアさんや利用者さんたちの温かい輪に入れていただいて、沢山のことを学んだ1年でした。デイルームでは、いつも賑やかな笑い声

が絶え間なく響いています。メンバーの殆どのかたが、ご高齢で一人暮らしです。デイルームで集うことが健康維持や生活の中の楽しみの一つになっていると感じています。

体操や歌唱、脳トレなどのプログラムもみんなですると楽しく、体操も苦になりません。懐かしい歌を歌って若かりし頃のお話しをしたり、難しい脳トレ問題やパズルにみんなで挑戦したり。ゲームでハッスルしたり。

美味しい昼食をみんなでいただくのもデイルームの楽しみの一つです。温かいおみそ汁、美味しいお茶の提供に加え、食欲が湧いてくるような盛り付けにも気を配っておられるボランティアさんの優しさには頭が下がる思いです。

いつまでも健康で楽しく、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように。メンバーの皆さんと共に素敵な時間を築いていきたいと思います。



わいわいランチ

三中 恵津子

「ご苦労さま」に支えられて、6年になりました。毎週火曜日に参加して配膳と車での配達を手伝っております。

洗浄した容器をキッチンペーパーで拭いてテーブルに並べます。25食を超



える時はもう一つの長机も使います。メインディッシュや小口ケースに入れた副菜を、お弁当箱のそれぞれの場所に形よく、彩りよく入れていきます。適量が入っているかを確認したら蓋をし、4つ折りの「今日のお知らせ」を上のにせ、手づくりの弁当袋にいれて完成。お弁当袋を配達順を考えて運び箱に入れて、車に積み込み、配達に出ます。11時頃に出発できると気分上々。

利用者さんにお届けした時の「ありがとう」「今日も寒いね」等々の何気ない会話から、「〇〇さんは以前よりお元気になられたみたい」等と自らが感じたことを車中のお仲間や分室に戻ってから調理の人に話します。以前、玄関先から横になっておられる利用者さんの顔を見たことを報告し、お惣菜を小さく刻んでお届けしたら、ご家族から喜ばれました。利用者さんのご様子から、ランチのチームで考えて対応しています。無事に配り終えての昼食はおなかも空いて、和気あいあい、本当においしくいただきます。これは、細々と仕事をやっている私にとって、元気の素ではないかと思います。

さて、これから、どれぐらいの間、このボランティアを続けられるでしょうか？と考えつつ、とりあえず限られた

時間の中でわいわいランチに参加を続けたいと思います。

弓の木歌の集い

橋本 静子

この集いも18年を迎えました。発足時に生まれた子どもは高校を卒業する年にまで成長しています。当初、こんなに長く続けられるとは思ってもみませんでした。同じ曜日、同じ時間、同じ場所、同じ内容で、メンバーの入れ替わりはあっても、常時8人程度の参加者と共に淡々（たんたん）と続けられて来たというのが実感でしたが…。

歌っている歌も当初からほとんど変わらず、東日本大震災を機に「花は咲く」など何曲かは加わったものの毎回リクエストされるのは、明治から大正昭和と受け継がれてきた唱歌や童謡、戦後、ラジオから流れてきたラジオ歌謡や流行歌の類で占められ、たまに艶歌が出て来ても単発で終わってしまうのが現状です。参加者に多少の年代の開きはあるものの、共に歌って心和み、慰められる歌の数々を共有できるというのは、本当に驚くべき事ではないかと思うようになりました。あらゆるジャンルの夥しい歌があふれている現代ですが、今の子どもや若者が高齢になった時、共

に聞きたいという歌はあるかもしれませんが、共に歌える歌が果たして何曲あるでしょうか。

イメージふくらむ練られた歌詞と、誰でも歌えるシンプルで優れたメロディの歌の数々が私たちに与えられているのは何と幸せな事でしょう。激動の時代を生きて来た私達ですが、今この歌の恩恵に浴せられるのは、この世代に与えられた特権なのかもしれません。

その場が備えられ、ここまで続けて来た事に改めて感慨と感謝を深くしています。

夜回り準備会

中村 祥規

夜回り準備会は、2016年度も、月2回（第2・4土曜日）の「夜回り」を中心に活動しました。参加者、訪問先ともに減っていますが、一方で新しく訪問するようになった方もいます。

年末年始には、神戸のさまざまなグループが集まって実施する「越年・越冬活動」（今冬は2016年12月28日～2017年1月5日、三宮・東遊園地）で、担当の29日に炊き出しを行いました。穏やかな陽射しで、この時期としては過ごしやすい1日でした。



メニューは、ここ数年定番になっているチキンカレー。ふだんの夜回りメンバーだけでなく、会員の皆さんや、メンバーの友人関係からも大勢集まっていたいただいたおかげで、さくさく作業が進みました（毎年思いますが、ベテランの主婦の方が来ていただけるので、とても心強いです）。100人以上の肉や野菜を大鍋で炒めるのは、なかなかしない作業ですが、好きな作業です。途中、ちょっと水気が多いかとも思いましたが、最後にはうまくまとまって完成。味のほうも上々の評判でした。

午後は、東京の吉田さんからいただいたリンゴ（毎年送ってくださっています！）で、煮リンゴを作りました。これも格別な味でした。

また、この日は「追悼の日」でもあり、お坊さんと牧師さんによるお話とお経（お祈り）がありました。追悼を行なうテントには、活動で関わりがあった人の名前、年齢、亡くなった日などが記載されたボードが吊るされているのですが、その中には、名前や年齢がわからない方、凍死された方、といった方も少なくありません。あらためて、路上で生活することが、死と隣り合わせでもあることを痛感します。

ちやいやあらんど

木村 文子

児童館や市の子育て支援のイベントなどいくつか参加をしてきましたが、ちやいやあらんどの良いところはズバリ！「勝手に子どもを遊ばせておける」という点です。



われわれ乳幼児の子育てをしている母親は、ご存じの通りほぼ24時間子どもと離れることのない生活を操業しております。そんな中で、熱々のお茶を最後まで熱いまま飲みきることや、子どもには食べさせたくないお菓子を椅子に座って食べることを叶えてくれる場所が「ちやいやあらんど」なのです。

昨年はわいわいデイルームのボランティアをされている青柳さんの手作りおもちゃを近所の神社で飛ばして遊ぶというコラボレーションもできました。

子どもと手をつなぎ、荷物を持つ私たち親子と違う世代、違う立場の方々と手をつないだらまた違った楽しいことができる、ということがわかりました。

今年度もランチや様々な方のご協力で月に2～3回の通常開催と季節のイベントを開催するつもりです。

子どもたちの笑顔と笑いで耳が痛くなることでしょう。ここは子どもにとって小さな礎です。温かくかつ厳しく見守ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

わいわい科学クラブ

井上 みち子

「科学クラブ」2年目（通算9年）。参

加児童は1年生がほぼ半数で大きく様変わり。本館では20人ぐらい、分室では15人ぐらいの子どもたちが参加し科学実験や理科工作を楽しみました。「参加」する保護者も増えてきました。

実験テーマの選択にけっこう頭を悩めますのですが、本館ではグループで取り組むと盛り上がる？実験風を、分室では一人ひとりが充分に楽しめるモノづくりを選ぶようにしました。私のお気に入りには「ビー玉万華鏡」「ドライアイスをとのしもう」「静電気の実験」。特に静電気の「ライデン瓶（百人おどし）」は、午前も午後も大成功！ビリリンと共に達成感を味わいました。

今年度新サポーターは1人。大学生サポーター派遣プログラムからほぼ毎回参加があり、OB中学生・ジュニアサポーターは4人となり、毎回10人前後の“熟若男女”のサポーターのおかげで実施できています。



カフェもぐもぐ

沖本 雅子

若年性認知症の人と仲間たちの集い『カフェもぐもぐ』はまだ試行錯誤の段階ではありますが、仲間たちも少しずつ増えて毎月1回の出会いを楽しみに

活動しています。

若年性認知症の当事者で発起人の一人でもある佐治雅子さんは、「活動の具体的な内容はまだまだだけれども、当事者の仲間と話が出来ることがとても嬉しい。だから、これからもこの場所を大切にしていきたい。」と言います。

先日、活動を振り返って思うことを話合う機会がありました。佐治さんは「わたし認知症なんです。」と言うと、「えー、（認知症には）見えない」という反応が多いと言います。もぐもぐメンバーの一人は若年性認知症の当事者と共に活動することで、今まで自分が持っていた認知症に対するイメージが変わったと言います。身近に接するのは高齢者の認知症で当事者が自分の考えや思いを発言することができ、症状を具体的に伝えることができるとは思っても出来なかったことで、認識を新たにできたそうです。

「カフェもぐもぐ」の良いところは、参加者とスタッフという関係性ではなく、集まっているみんなが仲間たちで、何をするにも各々が役割を持ち連携しながら活動ができることだと思います。それぞれの気づきや学びの中、楽しくわいわい、もぐもぐと集えるカフェを目指します。みなさんも仲間になりませんか！いつでもお待ちしております！！



セカンドハウス・プログラム

～これからも応援してください！～

神戸YWCAは2011年から日本YWCAと協働してセカンドハウス・プログラム事務局を担ってきました。現在、セカンドハウスは横浜、名古屋、神戸の3軒ですが、この6年間で、利用者総計は174家族606人となりました。2017年4月からプログラム事務局はカーロふくしま（福島市内）へ移りますが、神戸セカンドハウス（西明石）は引き続き運用します。2017年度も福島の人たちにとって「もうひとつの自分の家」としてセカンドハウスが用いられますように応援してください。

利用者の声

❖ 今回で3度目の利用となりました。長男は今回6年生で、夏休みを長期利用できる最後でした。もちろんセカンドハウス、大家さん、担当者のお顔も憶えていましたし、懐かしい想いで3泊させていただきました。三男も3歳の時に初めて、そして今年は少しうすい思い出の中、セカンドハウスで過ごしましたが「来年もまた来れる？次はすぐに大家さんのKさんも、担当のNさんも覚えてるから顔わかるよ！」と一つひとつ成長の度に、「帰っ

てこれる場所」という実感とありがたい想いが親の私にも伝わり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

福島での生活は、慣れてくるといつい普通に通じがちな気がします。が、ふとした時に、子どもの将来・健康・仕事いろいろ含め、不安なおもいにおおわれてしまいそうになります。でもやはり子どもたちのふる里となるこの福島で楽しく有意義に暮らしたいと思い、今を大切に生きています。しばらくの間、ここを離れ、体の中をリセットするという意味で保養は出来る限りの間続けたいとおもいます。将来、後悔しないように親の出来る範囲での可能な全てを。

YWCAさんのセカンドハウスは本当に本当にありがたいです。上からの支援や少し義務的な保養が増える中、「ゆっくりしてください」「好きなように過ごしてください」というこの感じが心地良い限りです。いつまでもあって欲しいと心より願います。福島の中で、まだまだ前向きになれない親もたくさんいます。外に出る勇気が少し持てたら、このセカンドハウスはどんなに心を軽く明るくするでしょう。今回

も楽しく有意義な時間を過ごせました。本当にありがとうございました。
(郡山市在住〇さん)

2016年7月27日～30日)

❖ セカンドハウスは4回目の利用です。神戸のセカンドハウスにお世話になることは、私にとって「実家」ではないのに「帰省」するという感覚です。春から「秋になったら神戸に行ける！」を励みに仕事や子育てをがんばってきました。

震災から6年が過ぎようとしていますが、ここ1～2年の間に急速に震災がまるでなかったかのように、話題にできることも、メディア（地元さえ）で取り上げることも減りました。そして一番の変化は私自身も危機が薄れていることです。以前は自宅周辺や近所の公園などで遊ばせることをとても嫌な気持ちでもやもやしていましたが、いつからかあまり気にしていない自分がありました。

それでも保養は続けています。いつまで続ければよいのか分かりませんが、けど、子どもが自分の意見で「保養に行かない」と決める時までは、やっぱり親の責任なのかな…。そして無理もしないことにしました。保養に行けない＝ダメなこと、のような考えでしたが、自分と子どものペースに合わせて、楽しめることを前提に行こうと思っています。プログラムのある保養は疲れる場合もあります。もちろん団体行動ですから。それが無いのがこの「セカンドハウス」の良いところ！！

また来年お世話になりたいです。子どもが高学年、いや中学生ぐらいになるまでは、ぜひ利用させてください。

(福島市在住Uさん)

2016年10月7日～10日)

セカンドハウス お掃除し隊募集中！

セカンドハウスでは、利用の前後に家屋のお掃除、おふとんや備品の準備、寝具の洗濯、利用家族との夕食会への参加など、プログラム全体をお手伝いくださる方を募集しています。もちろんプログラムへの寄付も常に大募集中！

ご一緒にこのプログラムを支えてくださいませんか。

お問い合わせは神戸YWCA
(tel. 078-231-6201、担当：西本)
までどうぞ。



お掃除し隊は、時に「草抜きし隊」にも変身します！福島の家族が気持ち良く過ごせるようがんばります。



ありがとうございました!!

(2016.1.1 ~ 12.31)

地域福祉部へのご寄付など ご協力くださった方々 (順不同・敬称略)

*万が一お名前がもれている場合にはご一報いただけましたら幸いです。

海妻彦之	李初容	鶴崎祥子	手島千景
井上 力	岩崎滋	片山恵	森田浩子
後藤安子	向井久視	内山佳子	川辺比呂子
重野 彰	宮田輝雄	田中洋子	谷合公江
中川一夫	平木貴美子	渡邊つたえ	原 昌義
中田洋子	森良子	三島孝子	山下暁美
モアゼニ純子	東根順子	川野博子	吉田英三
王子印刷工芸 (株) 木下徳男			

* みなさまのご支援・ご協力が神戸 YWCA 地域福祉部の活動を支えています。地域の方々にとって使いやすい場所になるように、これからも様々な整備をしていきたいと願っています。ぜひこの取り組みにご協力をお願いいたします。

【郵便振替】 01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA

【銀行口座】 三井住友銀行 三宮支店 普通 1015232
公益財団法人神戸YWCA

お知らせ

◆わいわいランチ

お弁当配達ボランティアを大募集!!

特に運転できる方と車に乗って配達できる方、来てください!!

◆夜回り準備会

夜回り活動に参加できる方を大募集しています!



YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語
や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社
会参画を進め、人権や健康や環境が守られ
る平和な世界を実現する国際 NGO です。

発行：

神戸 **YWCA** 地域福祉部

<本館>

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10

tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692

e-mail: office@kobe.ywca.or.jp

www.kobe.ywca.or.jp

<分室>

〒651-0063 神戸市中央区坂口通 5-2-15

tel. & fax. 078-221-5111

e-mail: bunshitsu@kobe.ywca.or.jp

www.kobe.ywca.or.jp